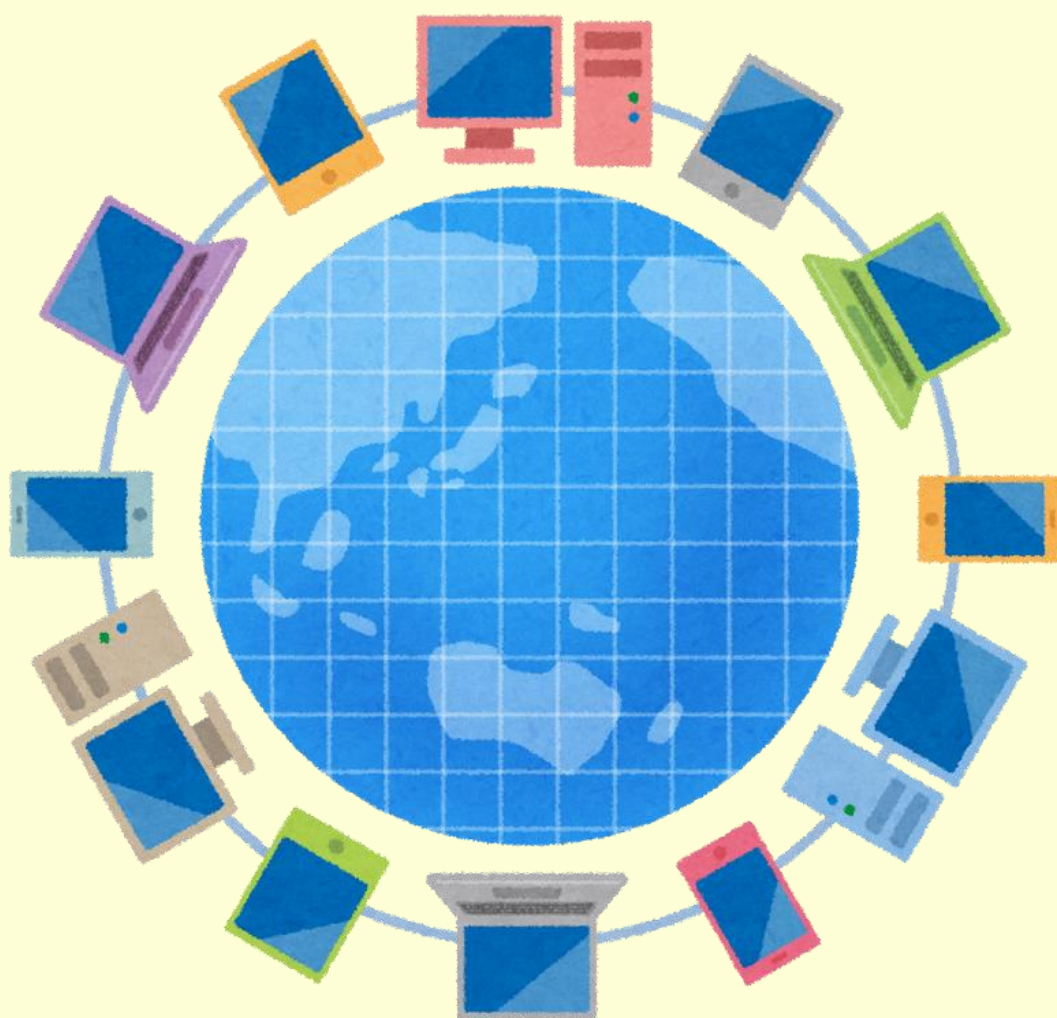


小学校道徳科の 「情報モラル指導資料集」 (読み物教材)



とらくんのタブレット

(一年生 正直、誠実 主題「しょうじきな こころで」)

きょう、一ねんくみでは、タブレットを 使った じゅぎょうが あります。
はじめに せんせいが

「タブレットは おとさないように きをつけましょう。」

と、はなしを しました。

タブレットのじゅぎょうが だいすきな とらくんは おおよろこび。

タブレットをケースから いきおいよく だしました。そのとき、てが すべって、タブレットが ゆかに おちてしまいました。

とらくんが タブレットを ひろうと、 かどが かけていました。

「どうしよう。」



とらくんが タブレット^{たぶれっと}を おとしたことに みんなは きづいていません。とらくんは せんせいに いおうか なやみました。みんながきづいていないので、だまっていることにしました。

いえに かえったあと、おねの ときどきが とまりませんでした。つぎのひ、とらくんは タブレット^{たぶれっと}の ことを しょうじきに せんせいには なすことにしました。

「せんせい、きのう タブレット^{たぶれっと}を おとして こわしてしまいました。ごめんなさい。」

「しょうじきに いえて えらいわ。でも、タブレット^{たぶれっと}は こわれやすいものだから、こんどからは きをつけて つかいましょうね。」

いつのまにか とらくんの おねの ときどきは きえていました。



しんぶん

新聞づくり

(二年生 善悪の判断 主題「正しいと思うことを」)

しんじさんは、クラスの新聞しんぶんがかりです。クラスの最新さいしんのニュースをあつめて、かかりの人きょうりよくたちと協力きょうりよくして新聞しんぶんを書いてかいます。しんじさんの新聞しんぶんはくわしく書かかれていると、みんなによろこばれています。

きょうも、しんじさんは、みんなによろこんでもらえるような新聞しんぶんを書かこうと、友だちともに最近さいきんのできごとを聞きいてまわっています。その中で、まさ子さんの家いえが新あたらしく建たて替かえられたといはなしはなしう話を聞ききました。

しんじさんは、まさ子さんから家いえの様子ようすを聞きき、さっそく新聞しんぶんづくりに取とりかかりました。その時おな、同じ新聞しんぶんがかりのひろしさんが、

「まさ子さんの家いえってぼくの家の近ちかくだから、場所ばしょがわかるよ。

地図ちずをかいっていっしょにのせようよ。」

と言いったので、まさ子さんの家の場所ばしょが分かる地図ちずを新聞しんぶんにのせることにしました。

しんじさんは新聞しんぶんができあがったので、まさ子さんに、にこにこしながら見せに行いきました。



新聞を見た、まさ子さんは、

「えっ！」

と、おどろきました。

まさ子さんは、新聞に地図がのると、知らない人に家の場所を知られてしまうかもしれないので、こわいと言うのです。

そのことを聞いたしんじさんは、なやんでしまいました。

しんじさんは、しばらく考えると、新聞がかりのみんなに、まさ子さんの気持ちを伝えまし



た。そして、新聞に地図はのせないことにしようと、みんなを説得しました。

まさ子さんは、その様子を少しはなれた所から見守っていました。

その日の帰り道、しんじさんはまさ子さんに声をかけられました。

「地図をのせないでくれてありがとう。」

まさ子さんの笑顔を見て、しんじさんのおねの中がすうっとしました。

オンラインゲーム（三年生 規則の尊重 主題「きまりを守って生活するには」）

まさと
誕生たんじょうび日に新しいゲーム機きを買ってもらいました。さっそく友だちの間で、はやっていいるオンラインゲームをため試してみると、とてもおもしろかったので、夢中むちゅうになってしまいました。

そんなある日、友だちの健太けんたさんからゲームの中で、とても強いアイテムを手に入れたと
いうことを聞きました。

健太けんたさんにくわしく話を聞いてみると、アイテムを手に入れるには、お金を払はらわないとい
けないということがわかりました。すると、正人さんは悩なやんでしまいました。なぜなら、正
人さんの家では、オンラインゲームは無料むりようでプレイするという約束やくそくがあるからです。正人さ
んは、健太けんたさんに、

「家の人との約束やくそくがあるから、ぼくは買わないよ。」
と言いました。すると、

せいきゅうしょ
請求書

たび
この度はアイテムのお買い上げありがとうございました。

つきましては、○月○日までに、代金^{だいきん}
お支払い^{しはら}ください。

「クラスの子もみんな買ってるよ。正人さんだって強いアイテムほしいだろ。」

と、健太^{けんた}さんに言われました。

家に帰った正人さんは、悩^{なや}んだ末^{すえ}に、親に言わずにアイテムを買ってしまいました。

正人さんは、親に言わずにアイテムを買ったことが心に引^ひかかっていたが、手に入れたアイテムを使うと、ゲームがおもしろいように進^{すす}むことが楽しくて、

いつしか、そのことを忘^{わす}れていました。

数日後^{すうじつご}、オンラインゲームをしていた正人さんのゲームの画面^{がめん}にメッセージ^{せいきゅうしょ}が出てきました。

メッセージは、ゲームの中で手に入れたアイテムの請求書^{せいきゅうしょ}のことだと気が付きました。正人さんはじっと画面^{がめん}を見つめたままでした。

その日、家族^{かぞく}で夕飯^{ゆうはん}を食べている時、おいしく感じませんでした。



メールの返信

(四年生 相互理解、寛容 主題「相手のことを考えて」)

「どうして、メールを返信しないのだろう。」

わたし(広子)が真弓まゆみにメールを送ってから、もう三十分も経たっているのに返事が来ない。真弓はいつも返信へんしんが遅おそい。私はメールが来たらすぐに返信できるように、家では常つねにスマホを持ち歩いているというのに。わたしは、明日の宿題について真弓に確認かくにんしたいことがあるのだ。さっきから何度もメールをしているのに、全然返って来ない。

次の日、学校に着くと、わたしはすぐに真弓のもとに向かい、なぜ返信をしなかったのかを聞いた。そして、真弓は

「昨日はほんとにごめんね。習い事があって、メールに気付いたのが朝だったの。それに、夜遅くにスマホは使わないっていう家族との約束もあるから返せなかったの。」

と言ってきました。わたしは、

「大事な用事だったんだから、早く返信してよ。真弓のせいで宿題ができなかったじゃない。」



と、言い返すと、真弓に背を向けて席にもどった。

その日の夕方、真弓から『返信できなくてごめんね』というメールが何度か来たが、わたしはスマホをしばらく放っておくことにした。

夜、お風呂に入ったあと、スマホを見てみると姉から着信とメールが来ていることに気が付いた。

『今、駅にいるんだけど、急に雨が降ってきたから、お母さんに車で迎えをお願いしてちょうだい。お母さんのスマホがつかないの。』

着信の時間を見ると、一時間前のものだった。

急いでお母さんに知らせようと思ったその時、ずぶ濡れになった姉が帰ってきた。わたしは、

「お姉ちゃんごめん！ メールに気が付かなかったの。」

と、すぐにあやまった。すると、姉は、

「いいのよ。広子も返信できない事情があるのかなって思ったんだ。気にしないで。」

と言って、タオルを取りに向かった。

わたしは、姉の後ろ姿を見ながら、真弓に対する自分の態度を思い返していた。



動画の投稿とうこう

（五年生 自由と責任 主題「責任ある行動とは」）

五年生の良子りょうこさんは最近ダンスに夢中です。お気に入りの動画を見ながら毎日ダンスの練習れんしゅうをしています。

今日は仲良しの明美あけみさんの家で一緒にダンスの練習をすることになりました。

練習をしていると、良子さんが二人で踊っているところを撮影さつえいして、動画投稿とうこうサイトに投稿とうこうしようと言いました。明美さんは、

「そのサイトっていろいろな人が見るんでしょう？なんだか怖いこわような気がするな。」
と、返しましたが、良子さんは、

「だいじょうぶだよ。わたしも何度か投稿とうこうしているし。」

と言うと、一人で撮影さつえいの準備じゅんびを始めました。

撮影さつえいが終わると、良子さんは明美さんにこんなことを言いました。

「見ている人に動画を気に入ってもらえると、『イーね』が付くんだよ。この動画なら絶対ぜったいにたくさん『イーね』が付くと思うから、わたしが投稿とうこうしておくね。」

と言って帰っていきました。

翌日、良子さんは教室にいた明美さんを見つけると、かけ寄って行き、

「さっそく、『イイね』が付いたよ。投稿して良かったね。もっと増えるように、練習してまたあげようね。」

と、言いました。

数日後、「イイね」がまったく増えなくなりました。良子さんは明美さんに、

『『イイね』が付けてもらえなくなったから、あの動画は削除することにしたよ。次は、もっとたくさん『イ

イね』がもらえるようにがんばろうね。』

と、言いました。しかし、明美さんは不安そうでした。

それからしばらくして良子さんが動画投稿サイトでダンスの動画を見ると、削除したはずの自分た

ちの動画を見付けました。その動画に付けられていた題名は「爆笑ダンス集」。一度、インターネット上

にあげられた動画は、保存され続け、一生消えないということを聞いたことを思い出した良子さんの頭に

明美さんの顔が浮かんできました。



町のキャラクター（六年生 規則の尊重 主題「権利を尊重するとは」）

ぼくの住む町、亀井町は古くからの温泉街だ。おんせんがい 今度、町のお祭りが開催かいさいされることになり、そこで、町のキャラクターを募集ぼしゅうすることになったので、ぼくは応募おうぼすることにした。キャラクターは、温泉マークと「亀井町」の「亀」を合わせて、「温泉さん」なんてどうだろう。よいアイデアが浮かんだと思ったのだが、一つだけ心配なことがあった。それは、ぼくはイラストを描くことがあまり得意ではないということだ。

参考になるイラストはないかとインターネットで調べていると、かわいい亀の絵を見つけた。それと温泉マークをダウンロードして合わせてみると、自分が想像した通りのイラストができた。

夕食の時に、お兄ちゃんと自作のキャラクターの話をしていると、お兄ちゃんに、

「インターネットで見つけた絵って、勝手に使って大丈夫なのか。」

と、言われたが、ぼくは、

「二つの絵を組み合わせるっていうアイデアは自分が考えたんだよ。それに町のイベントで使うくらい

大丈夫だよ。」

と、言い返した。お兄ちゃんは何かを言いかけたが、だまってしまった。

次の日、お兄ちゃんとの会話が気になっていたが、イラストを応募することにした。

数日後、学校へ行くと、仲良しの一郎が話しかけてきた。

「町のホームページに、『温亀さん』が載ってたぞ。最終候補に残ったんだな。

あんなにイラストが上手に描けるなんて知らなかったよ。」

「えっ。ホームページに載ってるの!」

と言ったきり、言葉が出てこなかった。

その晩、ぼくは「温亀さん」のイラストを自分の手で描いてみた。最初はなかなか思い通りに描けずに何度も消しては描いてを繰り返して、やっとの思いで描き上げた。ぼくは決して上手とは言えないイラストをじっと見つめた。

